

桜もイチョウも、日毎に大きく全体ゆたかになっていく緑葉たちの勢いが見事です。

秋に自ら枯れ落ちるまで、葉はおいしい空気を世界に与え続け、養分を作ってはそれを、おっかさんの樹木に送り届けます。そして夏には涼しい日蔭を作ってくれる葉っぱたち。一枚の葉の働き、何と偉大なことか……！と、自然の営みのひとつの象徴にあらためてびっくりです。世界は驚きに満ちているのですわ。

葉っぱを通して自然の不思議、その構想力に感嘆していたら、何故だか急に小さかった頃に聞いた話のことが浮かんできました。ワニと小鳥の話です。あのころ、ワニと小さな小鳥が仲良しで、小鳥はワニの口の中に飛び込んで歯のお掃除をするらしいのです。ワニにとっては歯をきれいにしてくれる小鳥がありがたく、小鳥もご馳走を提供してくれるワニが大切とのこと。結びつきどうもないところで、実に「うまいようになっていくんだなあ」と、びっくりしたりうなずいたりでした。

小さい頃と言えば、私の家は町の中の機械工場で、職人さんが鉄より硬い合金を相手に削ったり穴を開けたりして製品を作っていました。新たな注文、材質のものがくる度に既存のやり方、道具では立ち向かえないそうで、いつでも加工の仕方を考えたり、時には道具を作り出すところから作業が始まり、様々な工夫をしている様子が伝わってくるのでした。

職人さんというのは、左甚五郎ではありませんが神技と言えるような鮮やかな仕事ぶり、ちびっこにとっては憧れであり、幼いながらも「本物」の美しさを感じることができました。大自然の形成力、そこにこめられた様々な見事な工夫を神秘と呼ぶなら人の営みとしての職人技は、七転八倒、試行錯誤の中から一歩一歩つむぎ出された汗と涙の結晶体の輝きと言えましょう。

幼稚園という小さな村、大きな家！？も、たくさんの工夫で生活が作られ支えられています。

翌日の子どもたちが取り組む工作も、ゆめのくにの人形劇も、投げかけの物語にも、素敵な趣向が散りばめられています。

今、ちゅうちぐみとほしぐみの間のもうひとつの花壇も先生たちのアイデアで爽やかでゆたかに作られているところです。

壊れていた馬の乗り物もバス先生の手により新しく甦り子どもたちを楽しませてくれることでしょう。

そして遊びの天才の子どもたちのごっこひとつひとつにも、山盛りの工夫や、わくわくするような発想がこめられています。

工夫をするときの人々の表情には、内なる意志の輝きがあふれています。その手の働きの中には未来の時が立ち現われています。

2017年の5月、今年度ふたつ目の月を迎えます。

大人も子どもも、たくさんの魔法つかいたちの創意と工夫で、きっと時間や場やそして何より人と人との関係が、よりゆたかにつむがれていくことでしょう。

緑葉たちよ、五月の風よ、こいのほりよ……見守っていて下さいね。

共に新しい5月を、よろこびの中で、デザインしましょう！！